

平成31年度英語「話すこと」調査検証ワーキンググループ設置について

資料3-2

1. 英語「話すこと」調査導入の経緯

- 平成29年3月、英語力向上の観点から、全国学力・学習状況調査に英語(4技能)を追加することを決定（「全国的な学力調査に関する専門家会議 英語調査の検討に関するワーキンググループ」にて提言）

<全国学力・学習状況調査における中学校英語の実施に関する最終報告(概要)>

基本的考え方～「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の英語力を悉皆で実施～

【調査の目的に関する考え方】

- ・ 生徒一人一人の学力を把握し、生徒自らの学習改善や学習意欲の向上につなげること
- ・ 学校の調査結果の分析を踏まえ、学校全体としての指導や評価の改善につなげること
- ・ 教育委員会において、教員研修、指導体制の充実等の英語教育施策の改善・充実につなげること
- ・ 国において、英語教育施策の改善・充実につなげること

【全国学力・学習状況調査での実施により英語教育に期待される効果】

- ・ 「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の英語力について、妥当性・信頼性のある測定
- ・ 客観的なデータを全ての生徒の学習状況の改善・充実に活用
- ・ 学習指導要領の理念に基づき、次期学習指導要領の方向性も踏まえ、「生徒の発信力」等、特に重視される点や身につけるべき力を具体的なメッセージとして発信

具体的な仕組み

- ・ 平成31年度に実施し、実施頻度は、3年に1度程度(理科と同様)
- ・ すべての中学3年生を対象とする悉皆調査
- ・ 「聞くこと」「読むこと」はマークシート式、「書くこと」は記述式、「話すこと」の調査においてはコンピューターやタブレットを活用

2. 英語予備調査(平成30年5月)

<概要>

- 136校で実施(全国の公立中学校より抽出。主に、大規模校、特別支援学校等。)
- 平成31年5月1日～31日までの1ヶ月間で実施

<調査方法>

- 各学校のコンピュータ教室のPC端末、USBヘッドセット等を使用した音声録音方式

3. 平成31年度全国学力・学習状況調査 英語「話すこと」調査

<調査方法>

- 学校のコンピュータ教室等のPC端末を使用
- オフライン調査(USBメモリの活用)
- Windows7以上

<課題>

各学校のICT環境の整備状況によって、各学校における準備や実施にかかる負担が多様であり、その程度が現時点で網羅的かつ詳細には把握できないこと、さらに、万全に準備をした場合においても、PC端末の故障や不具合等が発生しうることなど、準備から実施に至る過程で、筆記方式の調査とは異なる課題や制約を抱えている。



<実施要領> 特例措置(要約)

- (1)「話すこと」調査については、設置管理者が各学校のICT環境の整備状況を把握し、各学校の状況を十分踏まえた上で、検討し、設置管理者の判断により学校単位で「話すこと」調査を実施しないこととすることができる。
- (2)「話すこと」調査の実施状況は、調査実施後に、実施校の全国総数のみ公表。
- (3)英語調査の結果は、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の合計を集計。「話すこと」調査の結果は、全国平均正答率を別に集計して「参考値」として公表(都道府県・指定都市別公表なし)。

4. 平成31年度英語「話すこと」調査の検証

- 「全国的な学力調査に関する専門家会議」の下に、「平成31年度英語『話すこと』調査検証WG」を設置

<検証事項>

- ①参加主体における「話すこと」調査の実施状況
- ②実施状況から分析される課題

⇒ 今年秋を目途にとりまとめ